

佐土原町商工会
中小企業景況調査報告書

平成28年7月～9月期

平成28年10月1日

佐土原町商工会

佐土原町商工会中小企業景況調査報告書

平成28年7月～9月期

1. 調査要領

【調査対象】

- (1) 対象地 佐土原町
(2) 回答企業数 80企業

【調査対象期間】 平成28年7月～9月を対象

【調査月】 平成28年9月

【調査方法】 佐土原町商工会会員による経営状況に関するアンケート調査

【調査データ産業別構成】

(1) 産業別構成

(小数点1位以下四捨五入)







業種	回答企業数	構成比
サービス業	31	38.7%
小売業	21	26.3%
製造業	16	20.0%
建設業	12	15.0%
合計	80	100%

(2) 従業員数別構成

従業員数	回答企業数	構成比
0人	4	5.0%
1～5人	56	70.0%
6～10人	14	17.5%
11人～20人	6	7.5%
21人以上	0	0%
合計	80	100%

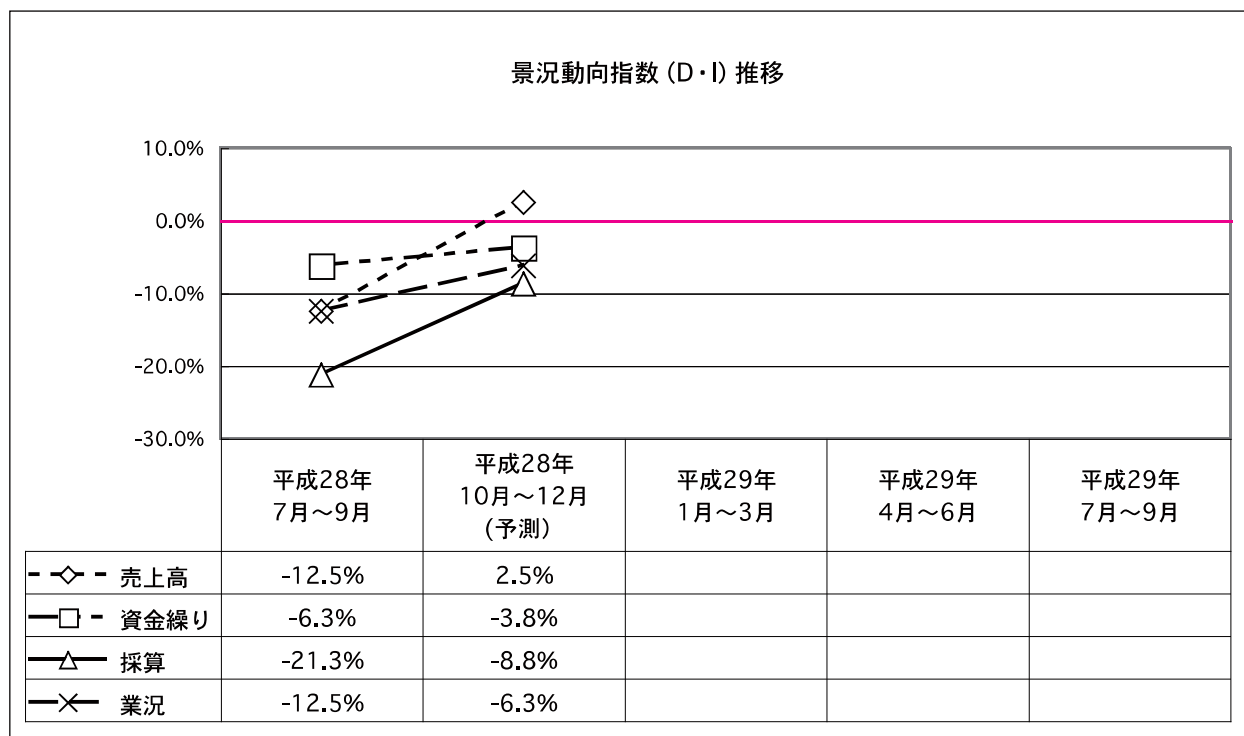
【その他】DI値と天気マーク

本報告書中のDI値とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

					
30%≦DI (特に好調)	15%≦DI<30% (好調)	0%≦DI<15% (やや好調)	-15%≦DI<0% (やや不振)	-30%<DI≦-15% (不振)	DI≦-30% (きわめて不振)

2. 全業種の景況

①景況感の推移

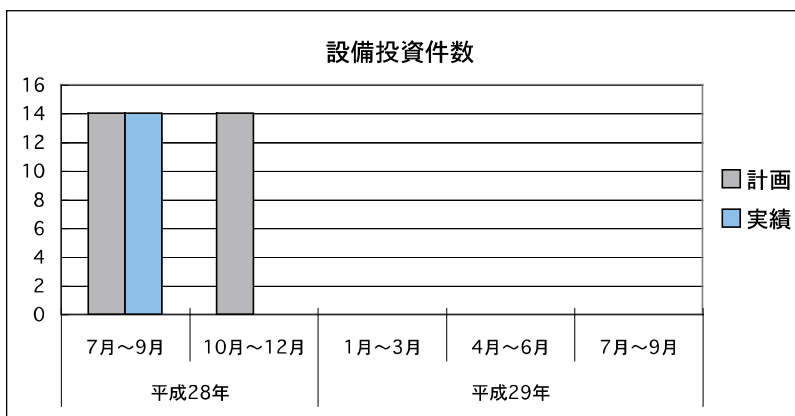


②景況の概況

	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高			↗
資金繰り			⇒
採算			↗
業況			⇒

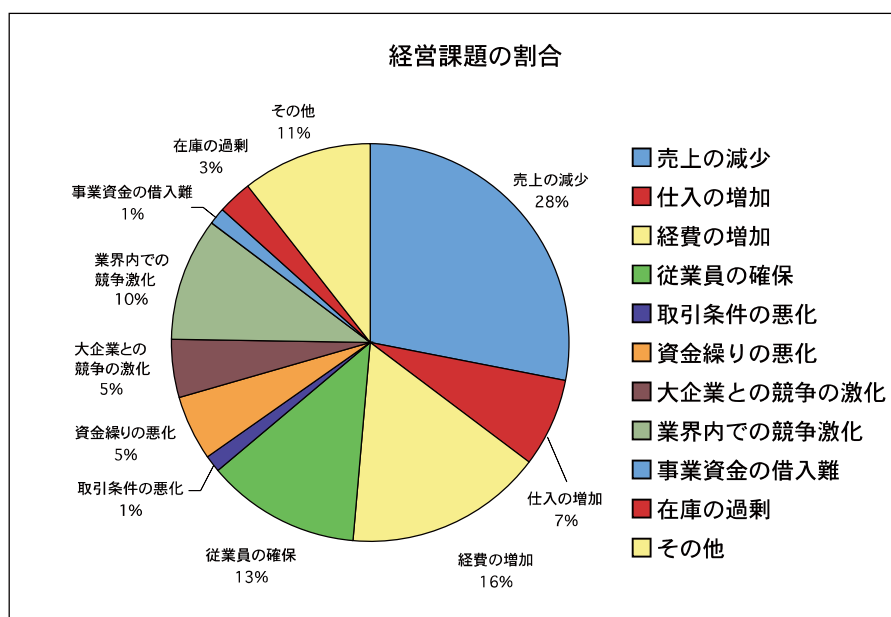
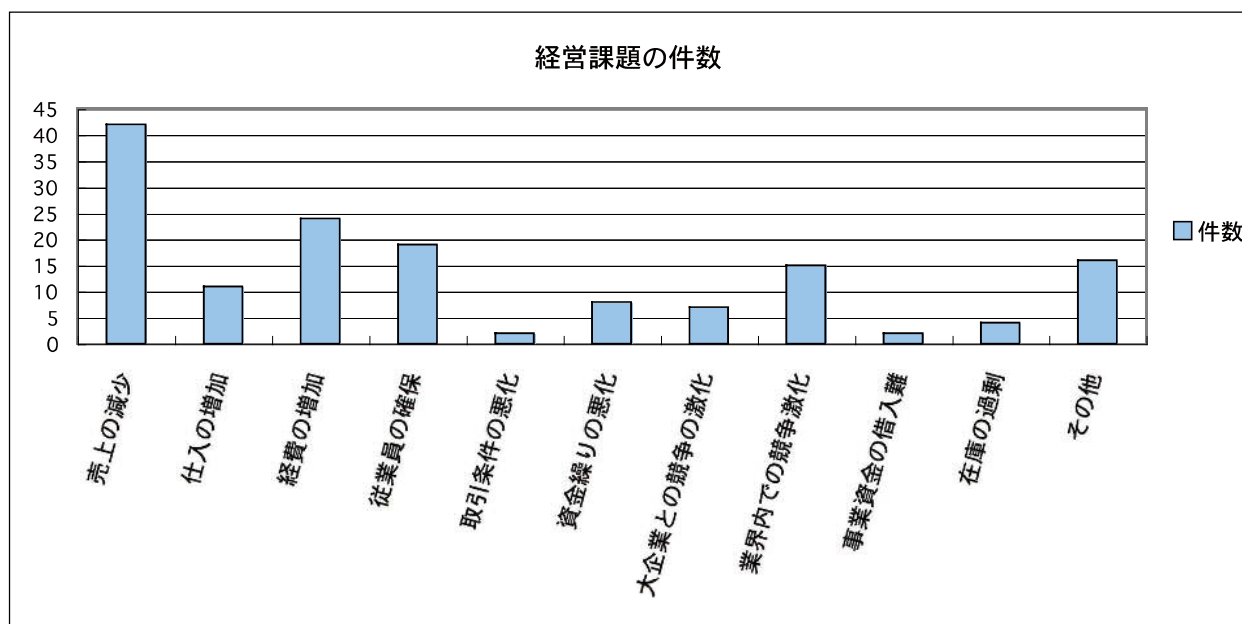
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、「売上高 / ▲12.5%」「資金繰り / ▲6.3%」「採算 / ▲21.3%」「業況 / ▲12.5%」と軒並み低調な傾向。
- 来期への予測としては、「売上高 / 2.5%(+15P)」「資金繰り / ▲3.8%(+2.5P)」「採算 / ▲8.8%(+12.5P)」「業況 / ▲6.3%(+6.2P)」すべての指標で改善方向にあり、特に「売上高」の大幅な改善が期待されているが全体的には弱い回復と推測される。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施は 14 件で投資内容は下記の通り
 - ・土地 (1)・建物 (2)
 - ・建設機械 (3)・OA 機器 (5)
 - ・車両 / 運搬具 (5)・その他 (3)
- 来期の設備投資計画は 14 件で投資内容は下記の通り
 - ・土地 (2)・建物 (3)
 - ・建設機械 (1)・付帯施設 (3)
 - ・OA 機器 (3)・車両 / 運搬具 (4)
 - ・福利厚生施設 (1)・その他 (4)

④経営課題



- 経営課題の上位3位は
<1位>
「売上の減少／28%」
- <2位>
「経費の増加／16%」
- <3位>
「従業員の確保／13%」

●売上の減少について危機
する回答が約3割を占め景
気の停滞がうかがえる結果。

●その他の課題には、様々
な「ニーズの変化への対応」
が記載されており、時代の
変化に伴う企業や商品の変
革の必要性を感じているこ
とが見受けられる。

⑤全企業概況

平成28年7月～9月の景況感は「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」すべての指標においてのDI値がマイナスの領域であり、相対的に厳しい結果となった。

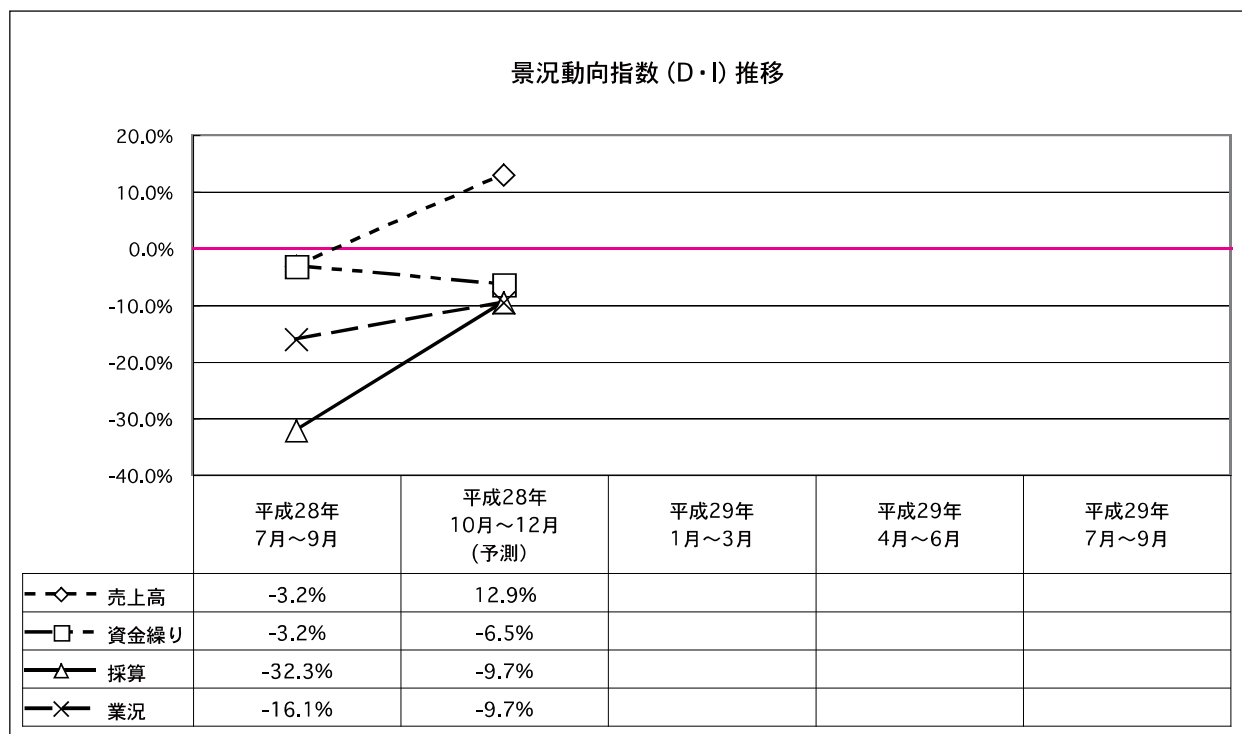
特に経営の体力を示す「採算」が▲21.3%であり収益性の低さが顕れている。この状況は消費者の購買力の低下による厳しい価格競争の結果と想定され、その要因の一つとして4月に発生した熊本震災の影響も大きいと推測される。

来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予想は、すべての指標で弱めではあるが回復基調となっている。特に「売上高」が大きく改善する予想であり、再来期に向けてその他の指標の押上につながっていくことが期待される。

宮崎県全体の傾向としてはすべての指標で改善傾向にあり、熊本震災の影響も観光支援策などにより徐々に緩和される傾向となっている。全国的な動向については前期と変わらず「円高をはじめとした国際経済不安感」「消費者物価指数の低迷」などで依然厳しい状況が続くことが推測される。

3. サービス業の景況

①景況感の推移

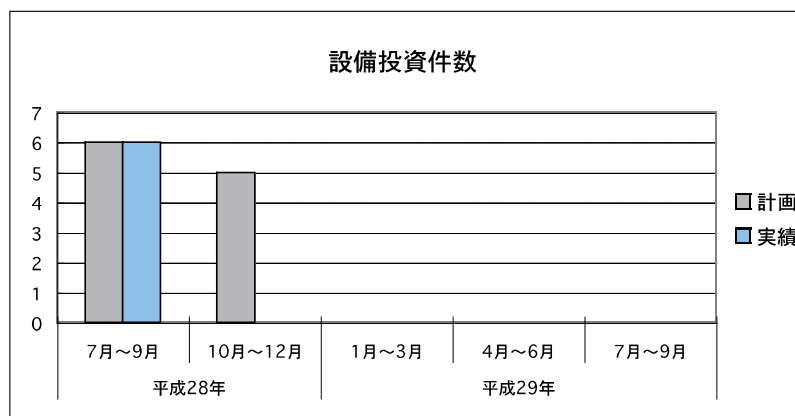


②景況の概況

	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高			↗
資金繰り			⇒
採算			↗
業況			↗

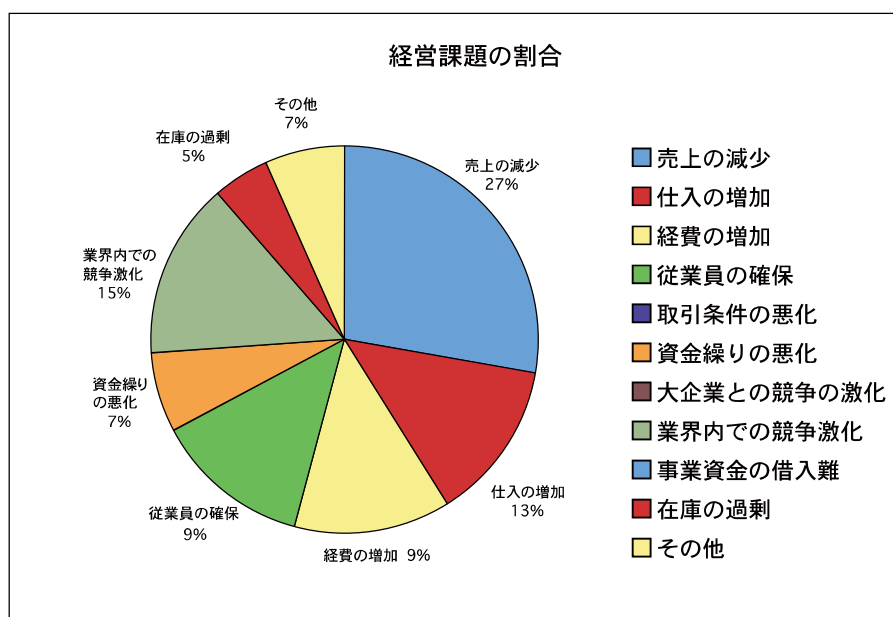
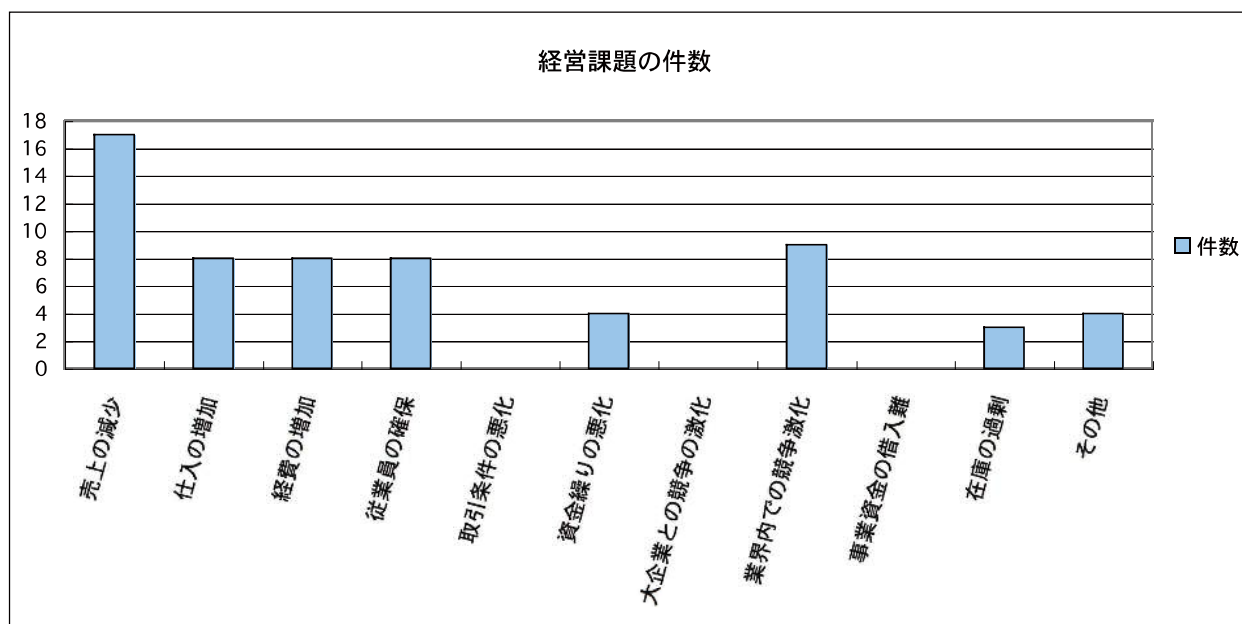
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、「売上高/▲3.2%」「資金繰り/▲3.2%」「採算/▲32.3%」「業況/▲16.1%」であり特に「採算」については厳しい結果。
- 来期への予測としては、「売上高/12.9%(+16.1P)」「資金繰り/▲6.5%(-3.3P)」「採算/▲9.7%(+22.6P)」「業況/▲9.7%(+6.4P)」と「売上高」と「採算」が大きく改善する予測であり全体的に回復基調と推測。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施は 6 件
投資内容は下記の通り
・建物 (1) ・建設機械 (1)
・車両/運搬具(2)・その他(1)
- 来期の設備投資計画は 5 件
投資内容は下記の通り
・建物 (1) ・OA 機器 (1)
・福利厚生施設 (1)
・車両/運搬具 (1)
- 来期の景況感の向上に伴う積極的な設備投資傾向と推測される。

④経営課題



●経営課題の上位3位は

- <1位>「売上の減少 / 27%」
- <2位>「業界内での競争激化 / 15%」
- <3位>「仕入の増加 / 13%」

●売上の減少について危惧する回答が3割弱を占める状況。

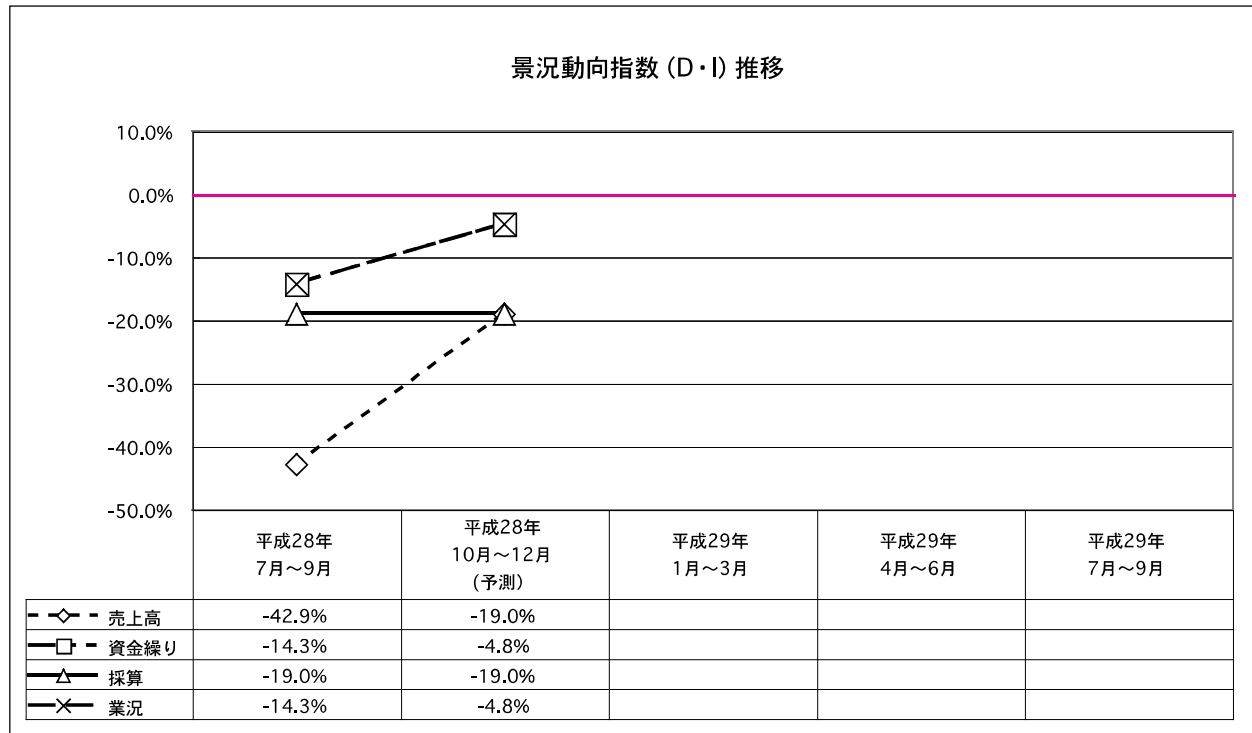
●新規参入などを含めた同業界での競争の激化が懸念されている。
またそれに伴う仕入コストなどの増加を危惧する声も多い。

<その他の経営課題>

- 利用者ニーズの変化への対応

4. 小売業の景況

①景況感の推移



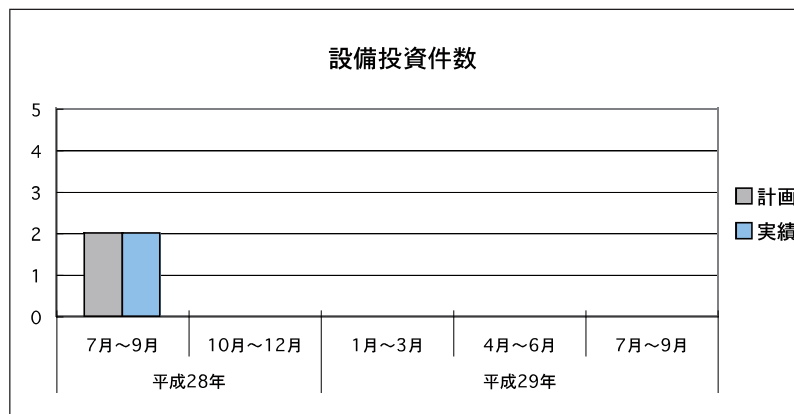
②景況の概況

	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高			↗
資金繰り			⇒
採算			⇒
業況			⇒

●今期の景況動向指数 (DI 値) は、「売上高 / ▲42.9%」「資金繰り / ▲14.3%」「採算 / ▲19.0%」「業況 / ▲14.3%」であり、全体的に低調な傾向。特に「売上高」は非常に厳しい結果。

●来期への予測としては、「売上高 / ▲19% (+23.9P)」「資金繰り / ▲4.8% (+9.5P)」「採算 / ▲19% (±0)」「業況 / ▲4.8% (+9.5P)」と「採算」を除く指標で改善傾向を予測。特に「売上高」の大幅改善が期待される。

③設備投資概況

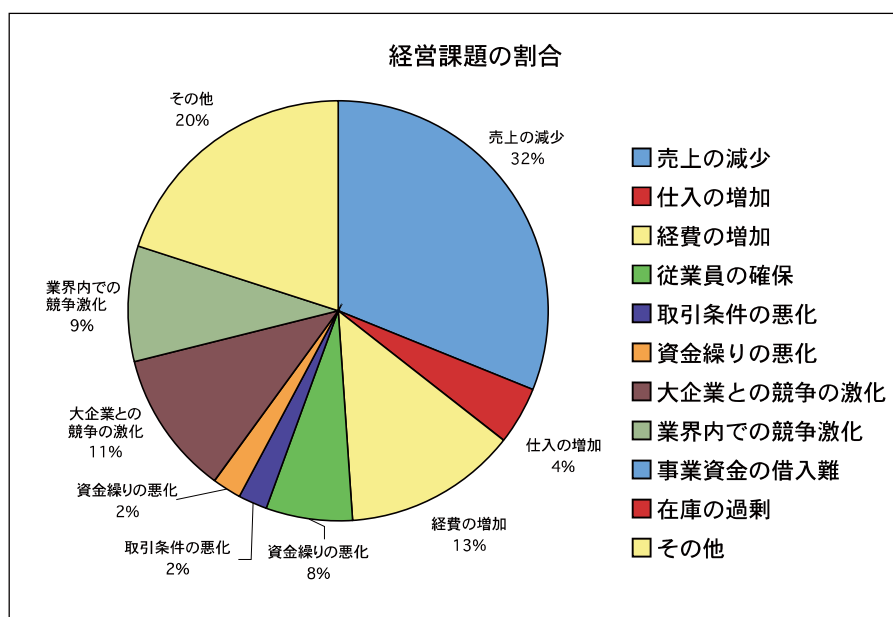
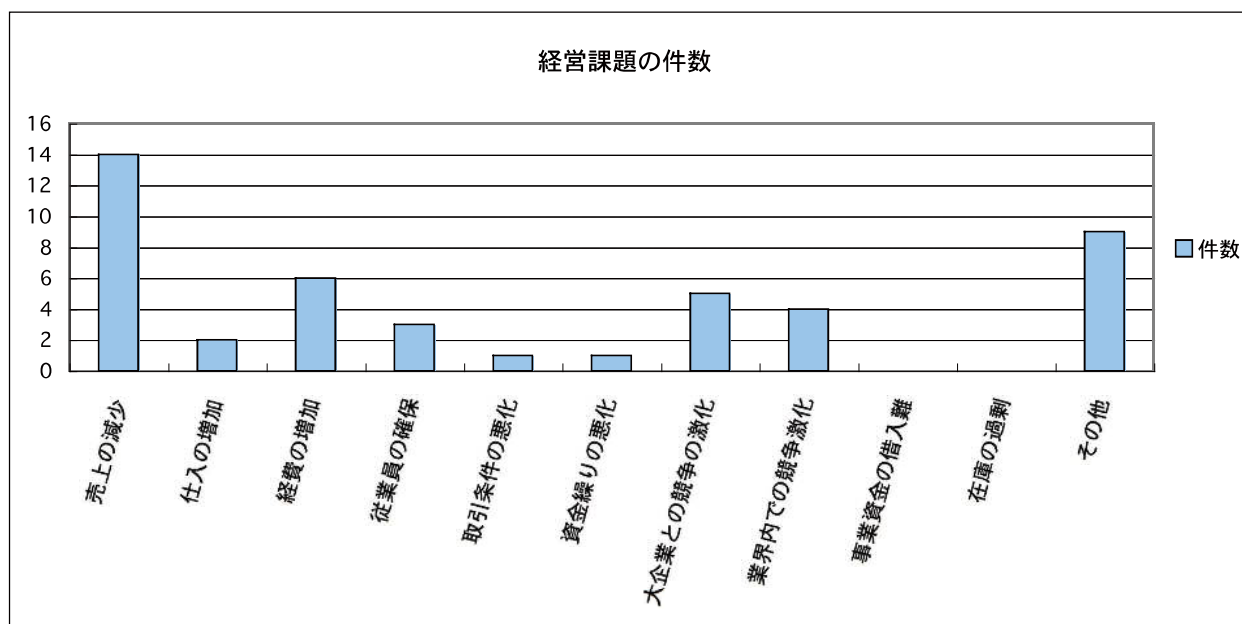


●今期の設備投資実施は 2 件
投資内容は下記の通り
・OA 機器 (1)
・その他 (1)

●来期の設備投資計画は無し

●低調な景況感と相まって活発な設備投資は弱い状況。

④経営課題



●経営課題の上位3位は ※「その他」を除く

<1位>「売上の減少 / 32%」

<2位>「経費の増加 / 13%」

<3位>「大企業との競争激化 / 11%」

●売上の減少について危惧する回答が約3割を占め個人消費の停滞がうかがえる結果。

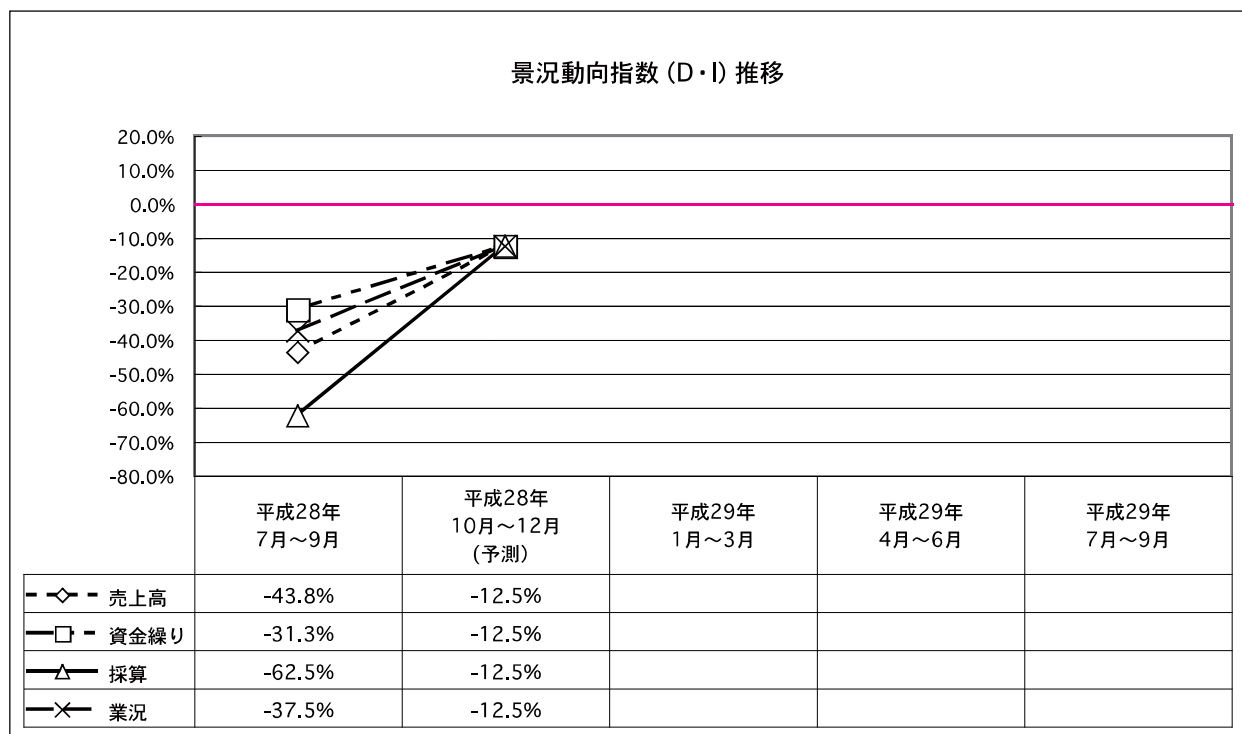
●業界内および大手等との顧客争奪の競争の激化を懸念していると推測される。

<その他の経営課題>

- 認知度アップ
- 食品廃棄の増加
- ネット販売ポイント制の導入
- 消費者ニーズの変化の対応
- 販売力の他地域への流出

5. 製造業の景況

①景況感の推移



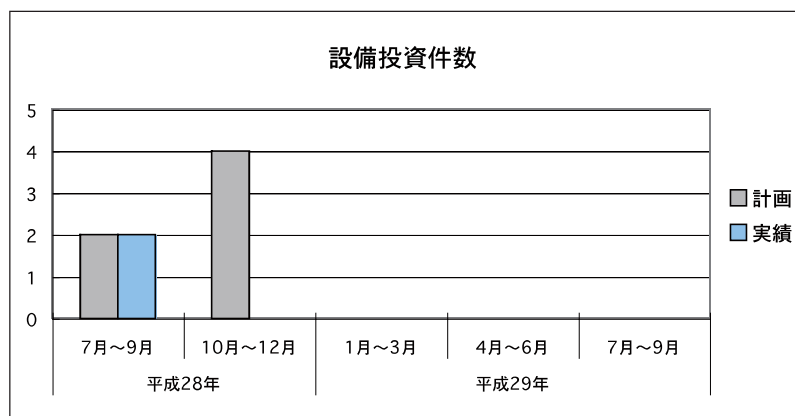
②景況の概況

	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高			↗
資金繰り			↗
採算			↗
業況			↗

●今期の景況動向指数 (DI 値) は、「売上高/▲43.8%」「資金繰り/▲31.3%」「採算/▲62.5%」「業況/▲37.5%」でありすべての指標で非常に厳しい結果。

●来期への予測としては、「売上高/▲12.5%(+31.3P)」「資金繰り/▲12.5%(+18.8P)」「採算/▲12.5%(+50P)」「業況/▲12.5%(+25P)」とすべての指標において大きく改善する予測であり全体的に回復基調と推測。

③設備投資概況

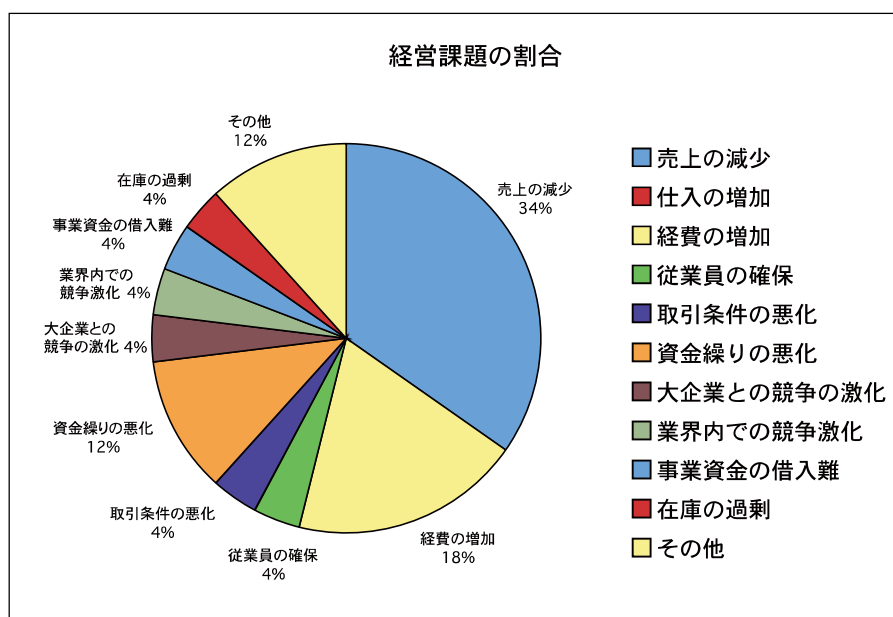
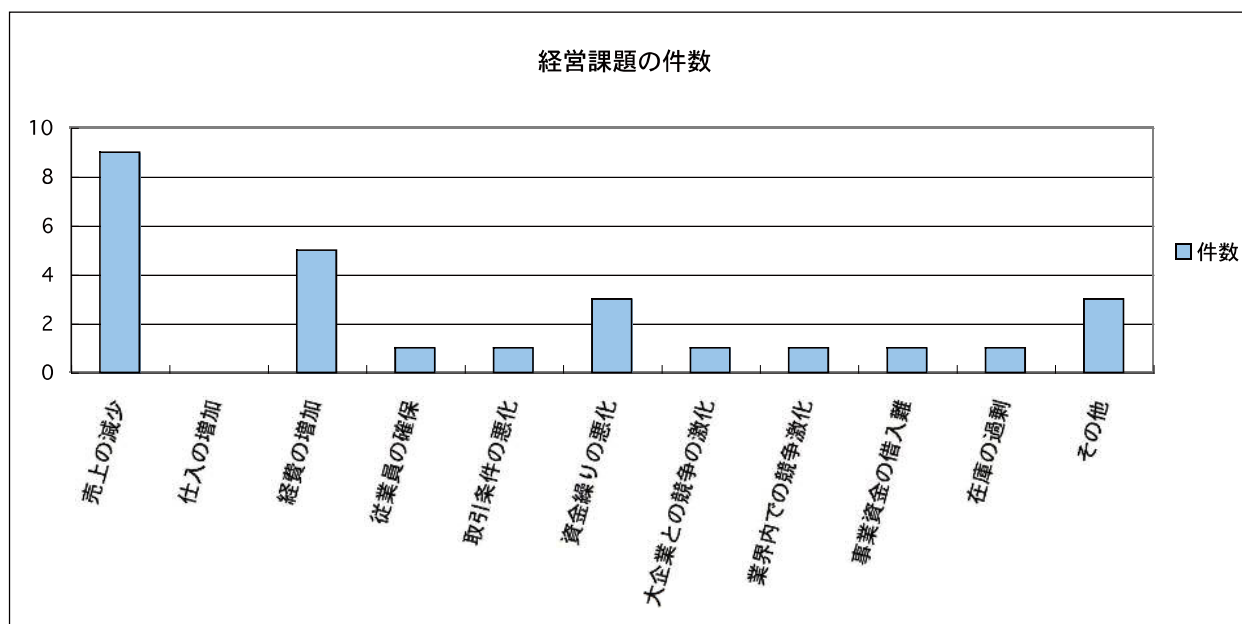


●今期の設備投資実施は 2 件
投資内容は下記の通り
・建設機械 (1)・OA 機器 (1)
・車両/運搬具 (1)

●来期の設備投資計画は 4 件
投資内容は下記の通り
・OA 機器 (1)・付帯施設 (1)
・車両/運搬具 (1)
・その他 (1)

●来期の景況感の向上に伴う積極的な設備投資傾向と推測される。

④ 経営課題



● 経営課題の上位 3 位は

- < 1 位 > 「売上の減少 / 34%」
- < 2 位 > 「経費の増加 / 18%」
- < 3 位 > 「資金繰りの悪化 / 12%」

● 「売上の減少」および「経費の増加」を懸念する回答を合わせると約半数を占める結果であり、今後の収益性の悪化が予測される。

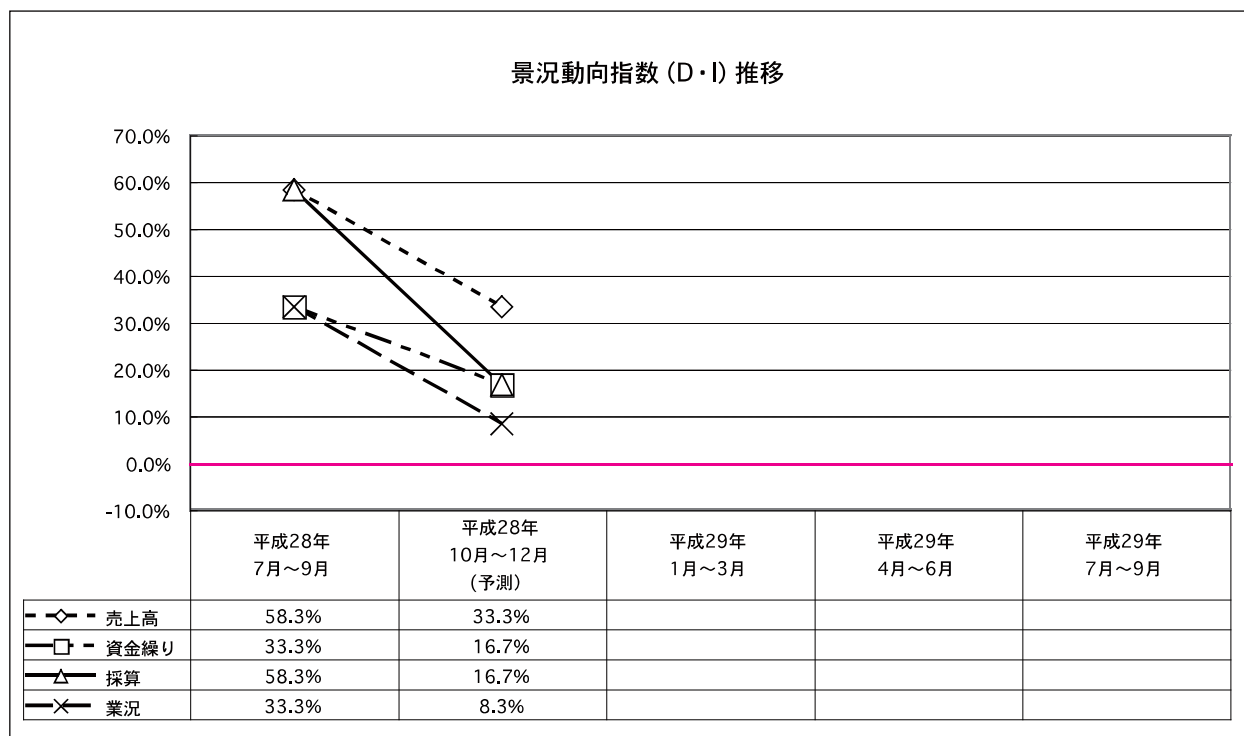
また、その結果が「資金繰りの悪化」の懸念に連鎖していると推測される。

< その他の経営課題 >

- 製品ニーズの変化への対応
- 生産設備の不足・老朽化

6. 建設業の景況

①景況感の推移

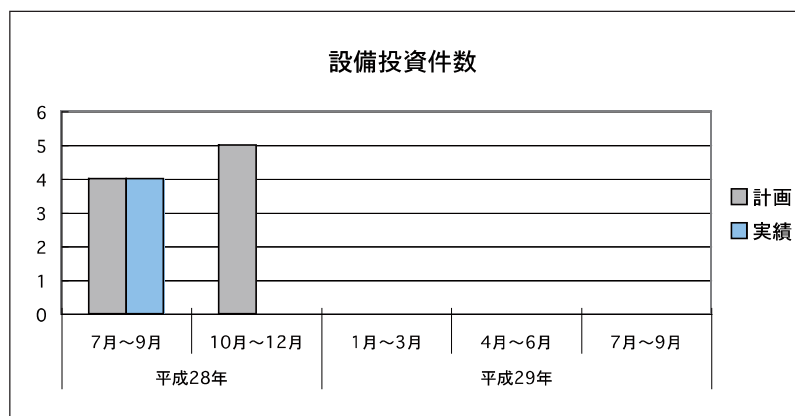


②景況の概況

	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高	☀️	☀️	⇒
資金繰り	☀️	☁️	⇓
採算	☀️	☁️	⇓
業況	☀️	☁️	⇓

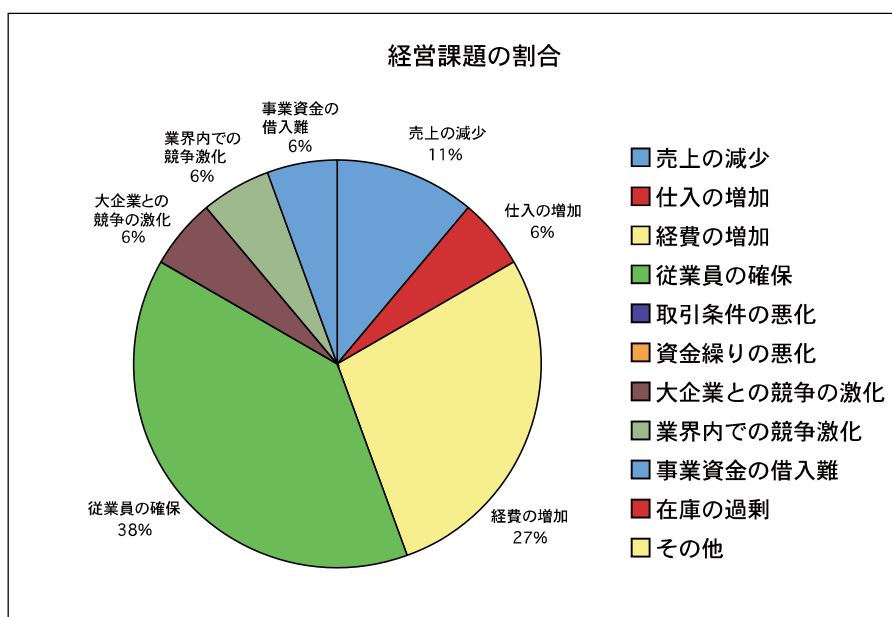
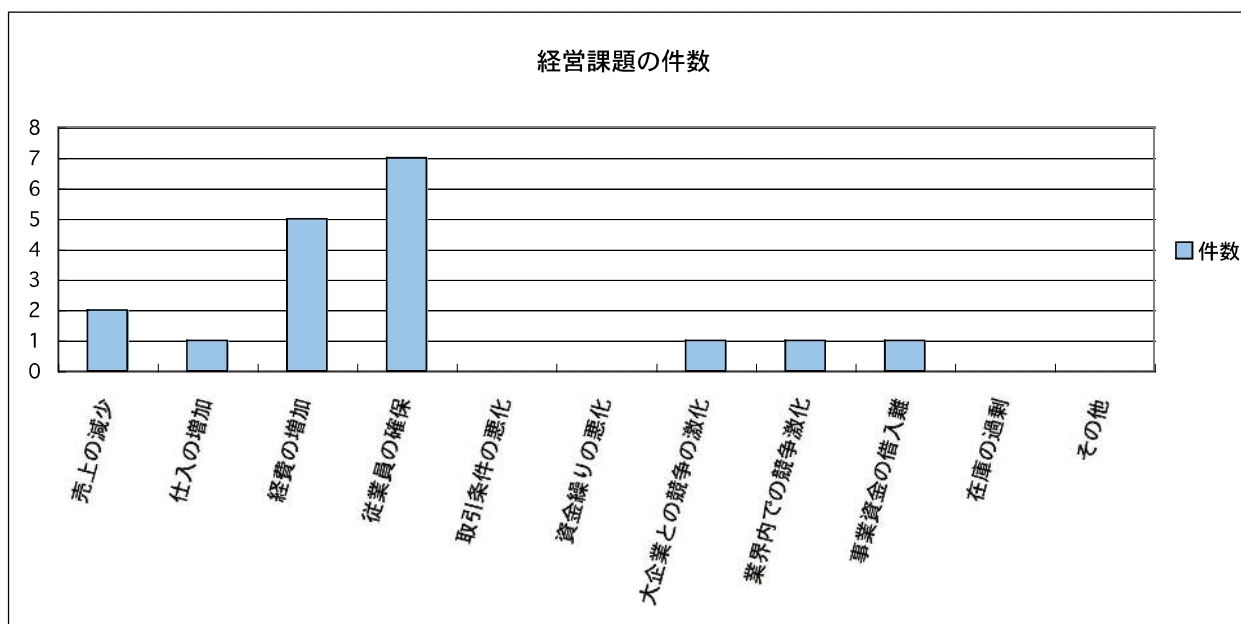
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、「売上高/58.3%」「資金繰り/33.3%」「採算/58.3%」「業況/33.3%」であり、すべての指標で非常に好調な結果。
- 来期への予測としては、「売上高/33.3%(-25P)」「資金繰り/16.7% (-16.6P)」「採算/16.7% (-41.6P)」「業況/8.3% (-25P)」と全指標で大幅な悪化を予測。特に「採算」の悪化が激しく経費の増加や価格競争の激化が推測される。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施は 4 件
投資内容は下記の通り
・土地 (1) ・建物 (1)
・OA 機器 (2)
・車両/運搬具 (1) ・その他 (1)
- 来期の設備投資計画は 5 件
投資内容は下記の通り
・土地 (2) ・建物 (2)
・建設機械 (1) ・付帯施設 (1)
・車両/運搬具 (1) ・その他 (1)
- 好調な景況感より投資も積極的。

④経営課題



●経営課題の上位3位は

- <1位>「従業員の確保 / 38%」
- <2位>「経費の増加 / 27%」
- <3位>「売上の減少 / 11%」

- 好調な景況状況の結果として従業員の確保不足の課題が多く存在するがその反面、経費の増加や競争の激化などに伴う価格の低下などが懸念されていると推測される。

<その他の経営課題>

- 特に記載なし

7. 景況概要のまとめ(業種別)

①サービス業

サービス業における今期の景況感は、「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」すべての指標においてのDI値がマイナスの領域であり、相対的に「やや不振」の傾向であったと判断される。特に、経営の体力である「採算」が▲32.3%であり収益性の低さが目立つ結果となった。要因は課題からも見受けられるように、「競争の激化」→「価格競争」→「売上の減少」→「採算の悪化」の悪循環が推測される。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予想では、「売上高(今期比+16.1P)」および「採算(今期比+22.6P)」が改善される予想ではあるが、「資金繰り」については今期の「採算」の影響が尾を引くと予測されており、相対的には弱めの回復基調であると推測される。宮崎県内のサービス業の傾向としては「売上高」は改善傾向、「採算」「資金繰り」は悪化傾向となっているが、来期に向けても「売上高」は改善傾向であり、全体的には弱い回復基調にあると推測される。全国的にも今期～来期に向けて微増ではあるが改善傾向であり、弱いながらも回復基調と推測される。

②小売業

小売業における今期の景況感は、「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」すべての指標においてのDI値がマイナスの領域であり「不振」の傾向であったと判断される。特に経営の源泉である「売上高」が▲42.9%であり、地域内外企業との競争の激化や熊本震災の影響など、厳しい経営環境が顕れている。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予想は、「売上高」の大幅な改善(今期比+23.9P)などの予測もあるが、マイナス領域から脱却は実現できない弱い回復基調であると推測される。また、課題についても他業種と比較して具体的で明確なものが多く経営環境の厳しさがうかがえる。宮崎県内の小売業の傾向としては「売上高」「資金繰り」が悪化傾向であり厳しい経営環境が顕れているが、来期に向けては改善の兆しもある。全国的業況は「横ばい」または「弱い改善」の傾向となっている。

③製造業

製造業における今期の景況感は、「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」すべての指標においてのDI値が「きわめて不調」の領域であり、非常に厳しい経営環境であったと判断される。特に、経営持続の源泉である「売上高」が▲43.8%、経営の体力である「採算」が▲62.5%であり、経営課題も資金循環に起因する内容が見受けられる。原因としては消費者購買力の低下による「小売業」や「サービス業」の低迷の二次的連鎖および熊本地震の間接的要因などが推測される。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予想では、すべての指標が大幅な回復基調であり特に「採算」は今期比+50Pと大幅な改善が期待されているが、すべての指標でマイナス領域にとどまる予測であり、引き続き強い回復基調の維持が必要と思われる。宮崎県内の製造業の傾向としては「売上高」「採算」「資金繰り」ともに改善傾向ではあるがDI値はマイナス領域で厳しい状況が継続。全国的には、業種により違いはあるがほぼ横ばいの傾向となっている。

④建設業

建設業における今期の景況感は、「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」すべての指標においてのDI値が「特に好調」の景況となっており、課題の中にも見受けられるように、従業者の確保や経費の増加など仕事量の増加を裏付ける内容となっている。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予想は、全体的に悪化傾向ではあるが、DI値はプラスの領域にとどまり、今期に引き続き好調さを持続すると推測される。注目する指標は「採算」が今期比-41.6Pであり、今後の競争の激化による、売上高の減少や経費の増加への対策が必要と推測される。宮崎県内の建設業の傾向としては「売上高」「採算」「資金繰り」ともに改善されており、中でも「売上高」「資金繰り」のDI値はプラス領域となり比較的好調な状況と推測できる。来期に向けてはすべての指標が悪化傾向を示している。全国的にも同様の傾向であり、今後の経済対策等の効果が期待される。

【参考データ】宮崎県商工会連合会 中小企業景況調査報告書(平成28年7月～9月期) / 経済産業省 中小企業景況調査(平成28年7月～9月期) / その他 総務省統計局資料など

8. 参考:景況に関するアンケート調査票

平成 28 年度伴走型小規模事業者支援推進事業

経済動向調査 (第 2 四半期)

景況に関するアンケート 調査票

佐土原町商工会

佐土原町商工会では小規模事業者の発展を目的とした経営発達支援事業に取り組んでいます。

その一環としてのアンケート調査です。ご協力をお願いします。

事業所名 _____ 業種 _____ 従業員数 _____
名

1 経営状況について

問 1. 今期 (7 月～9 月) の経営状況は、前年同期と比較してどうですか？

また、来期 (10 月～12 月) の見通しについてあてはまるものに○を 1 つつけてください。

	今期 (今年) の経営状況			来期 (来年) の見通し		
	増加	不変	減少	増加	不変	減少
① 売上高						
② 資金繰り						
③ 採算 (経常利益)						
④ 業況 (※)						

(※) 事業所にとっての景気の状態を記載してください。

2 設備投資について

問 2. 設備投資の実績及び予定について、あてはまるものに○を 1 つつけてください。

(1) 今期の設備投資 1. 実施した 2. 実施していない

(2) 来期の設備投資 1. 計画あり 2. 計画していない

(3) 実施した場合、計画ありの場合の投資内容 (あてはまるものに○を 1 つつけてください。)

今期の設備投資				来期の設備投資			
土地	建物	建設機械	車両・運搬具	土地	建物	建設機械	車両・運搬具
付帯施設	OA 機器	福利厚生施設	その他	付帯施設	OA 機器	福利厚生施設	その他

3 経営課題について

問 3. 現在の経営課題について、あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可: 3 つ以内)

1. 売上の減少 2. 仕入の増加 3. 経費の増加 4. 従業員の確保 5. 取引条件の悪化
6. 資金繰りの悪化 7. 大企業との競争の激化 8. 業界内での競争激化 9. 事業資金の借入難
10. 在庫の過剰 11. その他 ()

問 4. 商工会に相談したい経営課題、経営支援の希望がございましたら自由にご記入ください

ご協力ありがとうございました

佐土原町商工会
中小企業景況調査報告書
(平成28年7月～9月期)

平成28年10月発行

佐土原町商工会
〒880-0211
宮崎県宮崎市佐土原町下田島 20732-53
■TEL : 0985-73-2567
■FAX : 0985-73-4975